

第1期 組織力向上アドバイザー訪問

先日（6月6日）は、「組織力向上」の指定に関わり、今年度、第1回目のアドバイザー訪問がありました。アドバイザーや指導主事からご指導・ご助言いただいたことは、別の資料でお伝えさせていただきました。今回は「授業改善」の視点で共有を図りたいことを書かせていただいています。



～ 当日の訪問の流れ&内容 ～

- ① 組織力向上に関わる本校の取組説明(松本)
- ② 通覧授業のポイントや工夫点の紹介
参加教科主任より: 数学、理科、英語、体育
- ③ 授業通覧
- ④ 教科主任会: 社会授業づくり講座から学んだことの共有・協議
- ⑤ 取組を進めるにあたっての協議、指導・助言

①の場面で

本校の取組を説明する前に、昨年度、松田アドバイザーからご助言いただいたことに留意して取組を進めてきたこと、そして、それらの視点で授業改善を継続して行っていることをお伝えしました。その内容を再度、共有します。

■ 授業づくりに関して

- ・再度、学校全体や教科会で「何を目指しているのか」を確認する。
- ・「活用」させる授業にする。
- ・知識の方に比重が置かれる授業に逆戻りしていないか。
- ・知識・技能と思考・判断・表現は一体的にやっていく。
- ・授業は、生徒に正しい答えを求めていくというより、チャレンジして失敗する子を育成するというスタンスで行っていく。
- ・基礎基本の定着のためにも活用の場面を大事にする。



授業改善のポイントです。再度、意識していきましょう。

■ 教科会の持ち方に関して

- ・学習指導要領を必ず開き、「付けたい力」を確認したうえで単元構想をする。
- ・単元や1単位時間の評価の内容を検討し、その力が付いているのか途中経過を共有する。
- ・「付けたい力」が付いたかを授業の中で見取る場面を設定する。
そのために、「子供たちにゆだねる時間」はどこか、「付けたい力が発揮できる場面はどこか」等、事前に検討する。
- ・各教科、ノートに表された生徒の表現や振り返りを見ていく。



④の場面で

社会授業づくり講座(教材研)から学んだことの共有

- ・学習指導要領からゴールを設定する。そのゴールは目の前の子供の姿をもとに子供の「学びたい」につながるゴールを設定する。
- ・生徒が主体的に学習に取り組むための問いを考える。
- ・何ができるようになるか(単元を通して、各時間を通して)、育成すべき資質・能力を具体的な生徒の発言や記述を考えて授業づくりをする。(評価規準をもとに見取る。見取り方: 行動、ノート)
- ・子供が何に疑問を持ってどんなことを探究したいと考えるか、思考の流れや実体験を考える。
- ・生徒の“問い”(疑問)を解決するために、教師が“問うべき問い”(ねらい: 教師、めあて: 生徒)が合うように授業を展開していく。
- ・問題解決に向けて、資料の活用を意味あるものにする。(資料の選択、必要性、根拠)

⑤の場面で

松田アドバイザーより

- ・教科主任会でも「子供の姿」をもとに協議を行う。
- ・校内研、教科主任会、教科会や、学力調査の分析・検証などは全て「授業改善」のために行っており、それらは全て「子供たちの資質・能力を育成する」ためである。
- ・方策などで困ったときは、「子供のためになるのはどっちか」を考えていく。全ては子供たちのために。全教職員で全校生徒を育てる仕組みを構築する。